

芝浦機械グループのあゆみ 時代の変遷に対して柔軟に

対応し培った技術でお客様の要望に応じてきた当社だからできること。さらなる進化へ…。

世の中の動き	1930年～1940年代	1950年～1960年代	1970年～1980年代
<p>●1937 日華事変(日中戦争)</p> <p>●1938 工作機械製造事業法</p> <p>●1941 太平洋戦争</p> <p>●1945 第二次世界大戦終戦</p> <p>●1947 民間輸出再開</p>	<p>●1950年代 石炭から石油へ</p> <p>●1951 サンフランシスコ講和条約</p> <p>●1957 カラーテレビ販売開始</p> <p>●1958 東京タワー完成</p> <p>●1964 東京五輪</p>	<p>●1970 大阪万博開幕</p> <p>●1973 オイルショック</p> <p>●1979 第二次オイルショック</p> <p>●1987 世界の人口50億人突破</p> <p>●1989 ベルリンの壁崩壊</p>	<p>●1974 アメリカ現法設立</p> <p>●1977 ブラジル現法設立</p> <p>●1977 (株)東芝からNC装置(TOSNUC)、電子ビーム描画装置(EBM)を移管</p> <p>●1978 シンガポール現法設立</p> <p>●1981 食品機器生産</p> <p>●1989 欧州現法設立</p> <p>●1989 タイ現法設立</p> <p>●1989 台湾現法設立</p>
<p>軍需から戦後復興へ</p>	<p>高度経済成長(重厚長大)</p>	<p>不況を乗り越え海外進出へ</p>	
<p>●1938 芝浦工作機械(株)設立</p> <p>国の特別法である「工作機械製造事業法」を受け、軍需生産の根幹となる工作機械製造を強化。これにより芝浦製作所(現(株)東芝)から独立運営するために設立された。</p>  <p>12mライフル盤</p>  <p>沼津工場</p>  <p>鶴見工場</p> <p>●1949 (株)芝浦機械製作所設立</p> <p>●1949 繊維機械生産</p> <p>戦後復興産業として当時盛んになっていた繊維産業を後押しすべく、培った技術を用いて繊維機械を生産。民間輸出再開で輸出された日本の高品質の繊維製品は海外で人気の商品となった。</p>  <p>繊維機械</p>	<p>●1951 ダイカストマシン(国産初の油圧駆動)完成</p> <p>●1952 押出成形機初号機完成</p> <p>●1953 親歯車ホブ盤完成</p> <p>●1956 射出成形機初号機完成</p> <p>高度経済成長期を迎え、時代は「重厚長大」へ。当社はこの「重厚長大」のモノづくりを支えるべく、顧客のニーズに応え、さまざまな加工を可能にする製品を生み出していく。</p>  <p>押出成形機 65mm単軸機</p>  <p>親歯車ホブ盤</p>  <p>ダイカストマシン 250HT</p>  <p>射出成形機 20-450S</p> <p>●1961 (株)芝浦機械製作所が芝浦工機(株)を吸収合併、「東芝機械株式会社」へと商号変更</p> 	<p>●1977 電子ビーム描画装置(EBM)</p>  <p>●1978 シンガポール現法設立</p> <p>●1981 食品機器生産</p> <p>オイルショック等の不況時にはビールサーバー等の食品機器の生産にも取り組んだ。</p>  <p>食品機器</p> <p>●1989 欧州現法設立</p> <p>●1989 タイ現法設立</p> <p>●1989 台湾現法設立</p> <p>世界進出は一部の地域にとどまらず、より広範囲にネットワークを拡大していく。</p>	

1990年～2000年代	2010年～現在
<p>●1993 バブル経済崩壊</p> <p>●1995 WTO(世界貿易機関)発足</p> <p>●1998 長野冬季五輪</p> <p>●2005 愛・地球博開幕</p> <p>●2008 リーマン・ショック</p>	<p>●2012 東京スカイツリー開業</p> <p>●2014 リニア中央新幹線着工</p> <p>●2015 COP21で「パリ協定」を採択</p> <p>●2016 リオデジャネイロ五輪</p> <p>●2019 平成から令和へ改元</p> <p>●2020 新型コロナウイルス感染拡大</p>
<p>加工から成形へ、新規事業の創出</p>	<p>先端技術につながる社会IoT+mへ</p>
<p>●1996 (株)東芝からスカラロボット業務移管</p>  <p>スカラロボット(移管当時)</p> <p>●1998 中国(上海)現法設立</p> <p>●1999 本社機構を東京から沼津へ移転</p>  <p>●2002 中国工場設立</p> <p>海外での生産拠点として初の工場を建設。</p>  <p>中国工場</p> <p>●2005 微細転写装置を開発</p>  <p>微細転写装置初号機ST50</p> <p>●2008 中国(深圳)現法設立</p>	<p>●2011 ベトナム現法設立</p> <p>●2012 インド工場設立</p> <p>インドの射出成形機企業を子会社化。</p> <p>●2012 タイ工場設立</p> <p>●2012 インドネシア現法設立</p> <p>●2017 (株)東芝が保有していた当社株式を買い取り、東芝グループ離脱</p> <p>●2017 IoT+m公表</p> <p>単一事業では成し遂げない「機械メーカーの総合力」を活かしたご提案へ。</p> <p>●2018 ボード型PLC TC11-00を開発</p> <p>機械のIoT化を支援するオープンネットワーク対応機器を開発。</p> <p>●2019 IoTプラットフォーム「machiNet」を制定</p> <p>IoT+mコンセプトを実現するプラットフォームを制定。</p>  <p>●2019 金属3D積層造形機受注開始</p> <p>削る造形から積層する造形へ。</p>  <p>●2019 メキシコ現法設立</p> <p>●2019 イタリア現法設立</p> <p>●2020 「芝浦機械株式会社」へ商号変更</p> <p>これまでの技術力を基盤に、新たなブランドの創造へ。</p> <p>ロゴ</p>  <p>エンブレム</p> 